

被災地クラブの活動状況と復興へ向けて(岩手県:後編)

～岩手県沿岸市町村にある総合型クラブへの支援と今後の展望～

岩手県クラブ育成アドバイザー 伊藤啓太

前回の5月号(メルマガ第79号[平成24年5月21日発行])には、岩手県沿岸市町村にある総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)のこの1年の活動について報告しましたが、今回はそれらの総合型クラブが受けた支援や今後の復興に向けての展望について紹介します。

被災地の総合型クラブへの支援状況

まず、昨年3.11の東日本大震災以降、岩手県に対してたくさんの支援をいただき本当にありがとうございます。主な支援は、公益財団法人日本体育協会主催「スポーツ用具等特別支援事業」(*1)、NPO法人クラブネッツ主催「子どもスポーツ支援プロジェクト」(*2)、公益財団法人日本体育協会・一般社団法人日本アスリート会議主催「ウォームアップジャパン in 東北事業」(*3)、その他、総合型クラブやスポーツの繋がりによる多くの個人や団体の方から、また、県内の総合型クラブからも、直接または間接的に多くの支援をいただきました。

震災直後は岩手県全体が大変な状況でありましたが、内陸部のクラブでは、震災から2カ月後の平成23年5月頃から活動を再開して、まずは自分たちの地域から元気を発信していけるように活動を展開していきました。チャリティイベント等も積極的に開催しており、クラブの活動に参加することが被災地復興にも繋がるような仕掛けづくりをしました。

県内クラブ同士での支援の仕組みづくり

県内でも内陸部と沿岸部では被害の状況が全く違うため、平成23年5月9日に「岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(以下、県連絡協議会)」の臨時役員会を開催して、各クラブの状況を確認するとともに、今後の方向性について話し合いました。

「同じ仲間として沿岸市町村の総合型クラブを支援していく」「元気な人が元気をなくさないように、まずは各クラブが自分達の地域で頑張る」

「県連絡協議会で情報を共有して、クラブ単体ではなく、みんなで出来る、継続した支援活動の仕組みをつくる」の3点を決めて取り組むことに決定しました。

内陸部の総合型クラブが、沿岸部の総合型クラブやスポーツ愛好者を招いて交流会やスポーツ教室を開催したり、沿岸市町村を訪問して運動指導や交流活動をしたり、内陸市町村へ避難している方々を対象とした交流イベントを開催したりするなど、それぞれのクラブが出来ることを実施しており、今もなお活動を継続しています。



沿岸市町村の総合型クラブの情報はなかなか伝わらないため、平成24年3月24日に開催した県連絡協議会の総会では、沿岸市町村の総合型クラブの方からクラブの現状について報告していた

だき、県内の総合型クラブ同士で情報共有を図りました。（メルマガ第 79 号掲載）今後は県連絡協議会として継続した支援活動の仕組みをつくることが課題となっています。

被災地でのクラブ創設と支援活動の課題

平成 24 年 5 月に沿岸被災地域の田野畑村で新たな総合型クラブ「田野畑村スポーツクラブ」が設立されました。クラブが村のスポーツ活動の中心になるとともに、仮設住宅での運動指導等も行っています。また、他の沿岸市町村でも、総合型クラブ設立を検討している地域がいくつかあります。これらの地域では、新たに総合型クラブを創設して、震災で崩壊してしまった地域のスポーツ環境・組織の再構築、地域コミュニティの再生を目指しています。

現在、沿岸市町村にある多くの総合型クラブが仮設住宅での運動指導等を行っています。活動中、参加者からは大きな笑い声がもれ、単に運動するだけではなく、人とふれあうコミュニティの場となっています。これらの総合型クラブは参加者が運動して健康になることだけが目的ではなく、参加者が健康になって自分たちで好きな所に行ったり、参加したりすることを目的として活動しています。

しかし、参加者の多くは女性で、男性の参加者が少ないような状況です。原因としては、これまで男性の多くは漁業や関連の仕事に従事しており、仕事以外の人間関係が少なく、仕事のない生活に戸惑っていること、女性と比べて仲間作りが苦手なことが挙げられると思います。これからは、男性を積極的に仮設住宅の外に連れ出すことが 1 つの課題となってきています。また、仮設住宅が無くなるまで活動は続いていくので、今後は運動指導に係わるスタッフのスキルアップやクラブ運営に携わるスタッフの人材育成も求められていきます。



被災地は何も変わっていない

被災地域では、震災のことが風化していくのを一番懸念していると思います。震災から 1 年 3 カ月が経過し、新聞やテレビでの報道はだいぶ落ち着いてきましたが、現地では、まだまだ何も変わっていない状況です。今後も継続的な支援をお願いしたいです。

出来れば実際に被災地域に足を運んで、そこで現地の総合型クラブの方と直接交流を図っていただくことが、一番の支援になると思います。被災地域の経済の活性化にも繋がり、何より地域住民の楽しみにもなります。

機会がありましたら、ぜひ岩手県内の総合型クラブとの交流を計画していただき、岩手県にお越しいただければと思います。岩手県内の総合型クラブについてのご質問などがありましたら、下記連絡先にお気軽にご連絡ください。

【連絡先】

財団法人岩手県体育協会 クラブ育成アドバイザー

（岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事務局）伊藤 啓太（いとう けいた）

〒020-0133 岩手県盛岡市青山 4 丁目 13-30

TEL: 0 1 9 - 6 4 8 - 0 4 0 0 FAX: 0 1 9 - 6 4 8 - 1 6 0 0

E-mail: k-ito@iwate-sports.or.jp

(*1) 公益財団法人日本体育協会主催「スポーツ用具等特別支援事業」

スポーツ振興くじ助成金[toto]を活用し、岩手県（沿岸部 12 市町村）、宮城県（全域）、福島県（全域）の「総合型クラブ全国協議会加入クラブ」と「市町村スポーツ少年団」を対象に、日体協オフィシャルパートナーであるアシックス、ミズノ（50 音順）のスポーツ用具等を提供。109 の総合型クラブに合計 2,332 万 3,037 円相当額のスポーツ用具等を提供。

(*2) NPO 法人クラブネット主催「子どもスポーツ支援プロジェクト」

被災クラブの支援のために、全国の総合型クラブやスポーツ NPO の仲間から支援金を集めて、被災した子どもたちが総合型クラブで活動をするための支援金として配布。

▼詳しくはこちらから

http://www.clubnetz.or.jp/?page_id=153

受け取った額や被災地クラブへ配布した額の一覧（平成 24 年 6 月 15 日現在）

http://www.clubnetz.or.jp/?page_id=658

http://www.clubnetz.or.jp/?page_id=976

(*3) 公益財団法人日本体育協会・一般社団法人日本アスリート会議主催「ウォームアップジャパン in 東北事業」

平成 23 年度に toto を活用し、岩手県、宮城県、福島県の延べ 39 会場において実施されたスポーツ教室や大会などに、総合型クラブ関係者や子どもたちと交流を深めるため延べ 47 名のアスリートを派遣。

▼詳しくはこちらから

<http://www.jathlete.jp/active/wuj.html>

※上記の他に、公益財団法人日本体育協会では、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人日本トップリーグ連携機構と連携し、被災地支援を目的に「スポーツこころのプロジェクト笑顔の教室」を実施しています。平成 23 年度は青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の被災地の小学校 76 校に対し、「夢先生」に選任したアスリート 53 名を派遣し、小学 5・6 年生を対象に 155 教室を開催しました。

▼詳しくはこちらから

「スポーツこころのプロジェクト」 <http://www.sports-kokoro.jp/pc/>

関連リンク：伊藤啓太氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/462/Default.aspx>